

# なかのなっちょ隊 通信

H30年度  
Vo.4

～支え合いの地域へ～

## なかのなっちょ隊（生活支援体制整備事業 第1層協議体）とは

「なっちょだい？」と声をかけあいながら、みんながつながって支え合えるよう、地域が求めているもの、地域に求められているもの、をみんなで考え、見つけ、情報を発信していく場。

参加団体：

社会福祉協議会、北信総合病院、ジェイエイ・アップル、高水福祉会、シルバー人材センター、介護支援専門員連絡会、民生児童委員協議会、長寿社会開発センター北信支部、中野市

7月はなかのなっちょ隊は開催されませんでしたので、活動日誌のみ載せさせていただきます。

## 生活支援コーディネーター活動日誌



7月5日、中央公民館で開催されている中野市シニア大学での、なかのなっちょ隊や集いの場についての社会活動講座に参加しました。

市シニア大学では概ね60歳以上の方を対象に教養講座や趣味の選択講座が年間を通じて行われていましたが、これまでになかった社会活動講座を、今年長寿社会開発センターの松永シニア活動推進コーディネーターのお声掛けにより開催されました。

当日は60名以上の方が参加され、以前からシニア大学に登録されていた方以外にも、今回のテーマ「なっちょだい？ 人とのつながり・集いの場」に興味を持ち新たに参加された方もいらっしゃいました。

講座では市の現状やなかのなっちょ隊について、また集う事の意義等を、私からお話させていただき、松永コーディネーターからは、市内や他市町村での集いの場についてお話しいただきました。

そして講義内容についてグループワークが行われました。

ご自分達が行っている地域活動や、地域内の集いの場、そして求める集いの場について、どのグループも活発な話し合いがされ、まだまだ私が知らない活動や集いの場が多くあるのだと実感しました。

ご近所のゴミ出しやおかずのおすそ分けをしている方からは、「自分のついでにやっているだけだから苦じゃないよ。同じ隣組のご近所だしね。」といった言葉が聞かれました。

市シニア大学を受講されている方には活動への意欲が高い方が多く、今回の講座が色々な活動の情報交換の場となり、地域の今について考え、行動するきっかけとなればと思います。

「今は誰でも寄れるような場所が無くなってしまった。」

「こども食堂や駄菓子屋に大人も行ってもいいんだね。」



「初めての集いの場には行きにくいけど、一度行ってしまえば楽しくてまた行きたくなる。」

「男性が行きやすい場が無い」

7月21日豊田地区で開かれているこども食堂「ララカフェ豊田」にお邪魔しました。

当日は子ども達と一緒に七夕の飾りつけが行われていました。

メニューは地元の野菜たっぷりのカレーで、とてもにぎやかな食事風景でした。

こちらのこども食堂は、地域で以前から学習支援をされていた元教員の方を中心に、地区の有志によって運営されています。

食材はスタッフや地域の方からの持ち寄りが多く、スタッフは当番制の参加ではなく、それぞれが参加できる時に協力し合っているため、無理なく続けられ、スタッフの皆さんはイキイキと活動されていました。

こども食堂を始めるにあたってのスタッフ探しでは、立ち上げメンバーの近所・友人など昔からのつながりからお声をかけていったとのことでした。

課題としては「ひとり暮らし高齢者や、本来の支援が必要な子の参加が少ない点」とのことでした。

「ゆくゆくは上今井区、永田区でもそれぞれの子ども食堂ができれば」と立ち上げメンバーである一人のスタッフの方の想いもお聞きしました。

支援が必要なお子さんや、地域のおひとり暮らし高齢者の参加が増えるよう、関係機関や民生委員さんと連携が必要性感じました。





7月10日にお邪魔した北永江区ではこれまでサロンが無く、マレットゴルフ仲間である5人のメンバーにより今回立ち上がりました。



主催者のひとりである現役の民生委員さんは、「次の民生委員に負担がかからないように、民生委員が立ち上げたという感じにはしたくない。気持ちのある仲間が集まってみんなで立ち上げた。」とのことでした。

立ち上げの準備として、木島平の集いの場でもあり買い物場でもある「夢ひろば」にみなさんで見学に行かれ、夢ひろばの活動に感銘を受け、自分達もとにかくやってみよう、とサロンを始められたそうです。

「永田地区はボランティア活動が少ない。このサロンをきっかけに地域での活動を根付かせていきたい。」との想いをお聞きしました。

今後は毎月開催を目指し、作品作りや展示、男性にも来てもらう為の囲碁の取り入れていく予定とのことでした。

趣味活動の集まりから、地域活動へつながるといった例は他の活動にもみられ、集まってみんなで活動することが、支え合いの地域づくりへの第一歩になっていました。



7月20日にお邪魔した松川区のサロンでは、中野市血圧測定友の会の会員さんによる血圧測定が行われました。



血圧測定友の会さんは血圧や自己測定法について学習を重ね、これまで市の事業においてご協力いただきましたが、サロンでの血圧測定活動についてもお声掛けしたところ、「地域でのボランティア活動はともとても大切。積極的に協力していきたい。」と、今年度より社会福祉協議会のサロン応援団に登録されました。

血圧測定場面では、専門職ではなく同じ地域の方による測定という事で、日頃の事や地区の事など参加者と

和やかに会話される姿がみられ、リラックスした状態での測定となっているようでした。

松川区のサロンは毎月20日開催と日にちが決まっているため、参加者も忘れないでいられるとのことをお聞きしました。

毎回サロンの冒頭でみなさんで歌を歌われますが、松川区民で元教員の方が歌の指導をされていたそうです。

地域の集いの場と地域活動がつながることで、互いにより充実していくのではないかと感じました。



7月26日、中央公民館に場所が移った「ボランティアルームあんと」での、折り紙サロンにお邪魔しました。こちらはボランティア連絡協議会に加入している「折りひめ」グループが開催しているサロンです。

折りひめさん様々なイベントに参加され、折り紙の楽しさについて伝える活動をされています。

お邪魔した日は、折り姫・彦星を作成しており、とても緻密な作業をされ、「これも認知症予防だよ。」と和



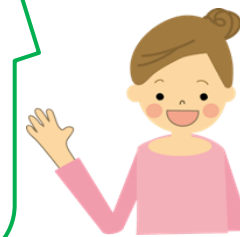
やかに活動されていました。

あんとでの活動は毎月第2・4木曜日ですが、メンバー以外の方も気軽に立ち寄ってほしいとのことでした。

他者と交流しながら趣味活動をし、その活動がさらに他の活動へとつながっていく、このことが社会参加となり介護予防となっているようでした。



ちょっとした困り事を手助けしてくれるようなボランティアさん、地区の方が気軽に集まれるような場、高齢者に優しいお店やサービス、地域の中で活躍されている方等の「地域のお宝」情報を教えてください☆



安心して年齢を重ねられるよう、「支え合い」や「あったらいいな」と思うものを、地域みんなで考えてみませんか？

【メモ】生活支援コーディネーターとは…

支え合いの地域づくりに向けて、

①地域の中で支え合い活動が生まれるよう、広がるよう、人・場・活動・情報などをつなぎます。

②地域の支え合い活動（『地域のお宝』）を、目に見えるように・活用できるように・役割がわかるように、発信します。

中野市高齢者支援課  
生活支援コーディネーター：小島杏子  
電話：22-2111（内線 366）